

ぞん ご存じですかー (1)

【じゃんけん】

じゅんぼん き ちい しょうぶごと しょうはい き にほんじん
順番を決めたり、小さな勝負事の勝敗を決めるときに、日本人はよく
て にぎ いし て ひら かみ ゆび にほん
じゃんけんをする。手を握りしめたのを石、手を開いたのを紙、指を二本
の か よ かみ か かみ いし か いし
だけ伸ばしたのをはさみと呼び、はさみは紙に勝ち、紙は石に勝ち、石は
か たにんずう
はさみに勝つというルールだ。じゃんけんは多人数でやることもできる。そ
さい ま ひと ぬ か のこ もの ふたた
の際は、負けた人が抜け、勝ち残った者が再びじゃんけんをするという
ほうほう さいご しょうしゃ き
方法で、最後の勝者を決める。

ほんらい ちゅうごく にほん はい えどじだい
じゃんけんは本来は中国から日本に入ってきたものだが、江戸時代には
とうはちけん あそ とうはちけん しょうや きつね りょうし
藤八拳をはじめいろいろな遊びがあった。藤八拳は、庄屋・狐・猟師
しょうや りょうし か りょうし きつね か きつね しょうや か
がそれぞれ庄屋は猟師に勝ち、猟師は狐に勝ち、狐は庄屋に勝つとい
か
うルールで、じゃんけんのルールと変わらないが、トーナメントまであって
おとな あそ りゅうこう
大人の遊びとして流行した。

【はちまき】

ほそなが おびじょう ぬの あたま ま おおむかし しゅうきょうてき い み
細長い帯状の布で頭に巻くもの。大昔は宗教的な意味があつて
ぎしき つか ろうどう さい あせど せいしんてきこうよう つか
儀式に使われていたが、労働の際の汗止めや、精神的な高揚のために使わ
ひたい ひ まる いんさつ ひ まるはちま
れるようになった。額のところに日の丸を印刷した日の丸鉢巻きは
だいにじたいせんちゅう こうはんい つか ゆうめい さっか
第二次大戦中に広範囲に使われたため有名になった。また、作家の

みしま ゆきお せつぷく さい ひ まるはちま こくさいてき し
三島由紀夫が切腹をした際に日の丸鉢巻きをしていたため国際的にも知れ
わたった。

なに とくべつ きんちょう がんば はちま しゅうかん いま
何か特別に緊張して頑張ろうとするときに鉢巻きをしめる習慣は今で
もある。1932年のロサンゼルスオリンピックで、100メートル走者
よしおかたかのりせんしゅ はちま わら いま
の吉岡隆徳選手が鉢巻きをして笑いものになったが、今は、スポーツでは
ヘッドバンドとして国際的に使われている。

【カラオケ】

えいご え
カラオケは英語のミュージックマイナスワンからアイデアを得たもの
うた ともな い み さいきんじゅうすうねん りゅうこうか
で、歌を伴わないオーケストラという意味だ。最近十数年、流行歌の
ばんそう たいりょう う だ えんかい しゅつせきしゃ
伴奏のみのカセットテープが大量に売り出され、宴会などで出席者が
こうたい も うた しゅうかん せいりつ のうそんちほう ちほうとし
交替でマイクを持って歌う習慣が成立した。農村地方や地方都市では、
どうこうかい う うた もくてき しゃこう いっしゅ
カラオケ同好会が生まれ、歌そのものを目的とした社交は一種の
しゃかいげんしょう
社会現象になっている。

れきしてき えどじだい しゅえん ば しゅつせきしゃ うた おど
歴史的には、江戸時代から酒宴の場で出席者がつぎつぎに歌や踊りを
えん でんとう はっせい えいきょう
演じる伝統があったが、これがカラオケの発生に影響しているものと
そうぞう
想像される。